

I. 一般目標

血液内科専門医として血液疾患への臨床能力を習得するために、

- 1) 血液疾患のプライマリーケアと専門医への紹介のタイミングを理解できる。
- 2) 一般的な血液疾患の診断と治療について理解し実践できる。
- 3) 難解な血液疾患についての、わかりやすいインフォームド・コミュニケーション・コンセント（ICC）を理解できる。

II. 担当する診療科

血液内科、がん化学療法内科

III. 研修期間

1カ月以上

IV. 指導スタッフ

	氏名	職名・担当	医師登録年月	指導医講習
責任者・指導医	青島 敬二	内科部長（血液内科）	1992.5	◎
	矢野 聖二	化学療法内科非常勤医師	1990.5	

V. 基本的な指導方法

1. 問診、既往歴、身体所見などから、考える血液疾患や鑑別しうる疾患を想定した検査計画と治療計画を立てることができるようにする。
2. 貧血、出血傾向、不明熱など、血液疾患を想定される場合でも、消化器疾患や感染症や膠原病なども考慮しつつ、必要な検査を的確に迅速に行う。
3. 血液疾患の診断における血液検査、輸血検査、骨髄検査について学習する（臨床検査センター、輸血部門での研修）。
4. 血液疾患の治療の中心である、化学療法、輸血療法、感染対策について症例を通じて学習する。
5. 外来化学療法センターにおいて固形癌（胃癌・大腸癌・肺癌・乳癌等）の外来化学療法の実際を体験する。
6. 血液疾患の外来診療について学習する。
7. 指導医とともに当直業務を行う。



外来化学療法センター

VI. 基本的週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月		病棟回診/講義					検査室			画像診断
火		外来診療					薬剤部			
水		化学療法センター					病棟回診			
木		外来診療					病棟回診		内科総回診	
金		救急外来					外来診療			
土		外来診療								

VII. 行動目標 (→p12)

VIII. 経験目標 (→p13~21)

A. 経験すべき診察法・検査・手技 (→p25~27、必修科目内科の項参照)

B. 経験すべき症状・病態・疾患

- ・頻度の高い以下の症状を経験し、鑑別できる (→p27、必修科目内科の項参照)。
- ・緊急を要する症状・病態を経験し、初期治療に参加できる (→p27、必修科目内科の項参照)。
- ・経験が求められる疾患・病態

貧血、白血病、悪性リンパ腫、DIC、肺癌、食道・胃・十二指腸疾患（胃癌）、
小腸・大腸疾患（大腸癌）、肝疾患（肝癌）、膵臓疾患（膵癌）、女性性器疾患（乳癌）

C. 特定の医療現場の経験 (→p27、必修科目内科の項参照)



クリーンルーム